

島根県高田市の事例(1)

「MaaSのゆくえ」として前4回の報告あり。右記のURL内参照方：<https://www.evfpj.org/mvf.html>

◆「井田いきいきタクシー」：温泉津町井田地区における定額タクシー

- 人口533人、高齢化率(65歳以上)54.8%(2020年、現在は452人、63.1%)という中山間地域である井田地区において、2020年4月から地域住民の日常生活における移動手段確保のため、自宅と温泉津町中心部及び主要交通結節点(駅・バス停)との間をドアツードアで結ぶ定額タクシーを運行
- 地域運営協議会主体で、地場企業がミニバン1台を含む3台のタクシーの運行を担当し、月曜～金曜の8:30～16:30間、予約があった場合のみ、利用登録者の自宅と目的地との間等を最適経路で運行。
- 料金は月額3300円、住所等の事前登録必要。乗車の1時間前までに電話により予約を行う。



- 現在も運行中で、会員の半数以上が「井田いきいきタクシー」のおかげで「外出回数が増加した」と回答。(住民アンケート調査結果より)
 - *「友達と一緒に温泉へ行ったり、地域イベントへ気軽に参加できる」、「気兼ねなく安心して外出できる」、「日々の外出回数が増えました」など。
- 月額3,300円の定額運賃は、週2回の買い物や病院に通う場合、1回の外出当たり 僅か413円。……「便利で安価な定期券」といえる



- 大田市内の複数他地区(久利大屋、志学、湯里、北三瓶)へ地域主体の交通確保活動が拡大している。現在は、主に高齢者、障害者を対象とした運営形態が多いが、今後交通弱者対策を地域の過疎化緩和対策に繋げる方策が必要か。

参照：井田いきいきタクシーHP：

<https://ida-ikiiki-taxi.localinfo.jp/pages/6458501/concept>

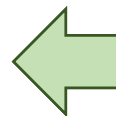
井田いきいきタクシーの運行区域・目的地



島根県高田市の事例(2) ◆石見銀山・大森地区におけるGMS「銀山カート」の現在

- 2017年～2021年に行われたGSM活用の実証実験の結果
 - GSMの存在により観光行動の誘発・訪問か所の増加が見込める
 - 観光を基軸とした地域の活性化に寄与する
 という結論のもと、**現実の運行が開始されている。**

人口407人、高齢化率40.8%の中山間地域である大森地区では、**2007年石見銀山の世界遺産登録以後急激に観光客が増加し、路線バスの増加だけでなくマイカー、観光バスが急増し、平均幅員3~4mの狭い道に交通混雑・渋滞が発生し問題化。** 同時に**銀山観光の要所に坂道が多く、移動制約者の生活、観光の難しさが課題**であった。



現状は・・・

◆世界遺産センターのホームページ内に掲載されている「石見銀山みであるきマップ」の片隅に、「ぎんざんカート」が紹介されている

石見銀山グリーンスローモビリティ「ぎんざんカート」

石見銀山の町並みから龍源寺間歩の間を時速約20km未満の電動ゴルフカート型車両に乗ってラクラク移動できます。

運行:1日10便～14便

区間:「大森代官所跡(レンタサイクル河村前)⇄龍源寺間歩」間

運休日:毎週水曜日

※悪天候の場合は、急遽運行を中止する場合があります。

※最新の運行状況、運行ダイヤはホームページをご覧ください。

※予約なし

※出発地で満員になった場合、途中でお乗りいただけません場合があります。

※観光時間に余裕をもってご利用ください。



◆大森代官所跡～龍源寺間を、毎日10便～14便運航。この間は、約3km、標高差120m → 高年齢層の観光客にはちょっと辛い坂道

「ぎんざんカート」の公式Webサイト <<https://gc.iwamiginzan.jp/ja>>

◆スマホで「ぎんざんカート」の公式Webサイトを開けば、《ぎんざんカートの現在の運行状況》を見ることができ、どこを走っているか、乗車できるかを確認することができる



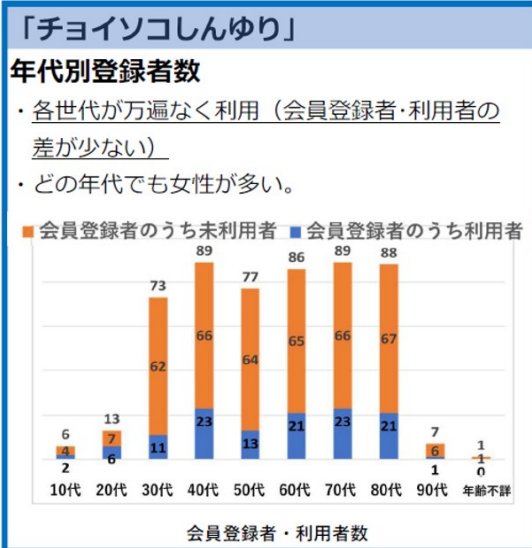
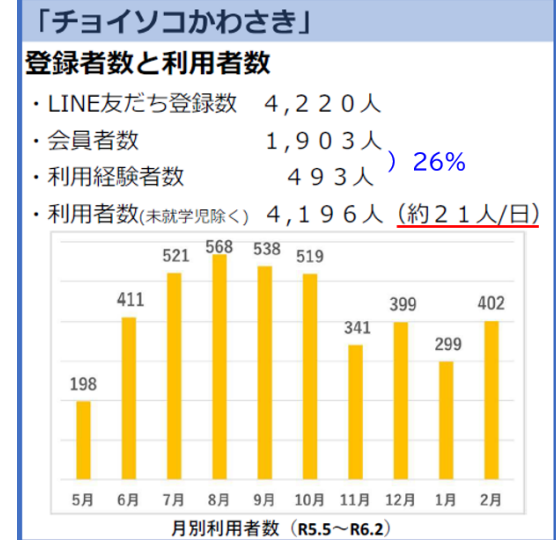
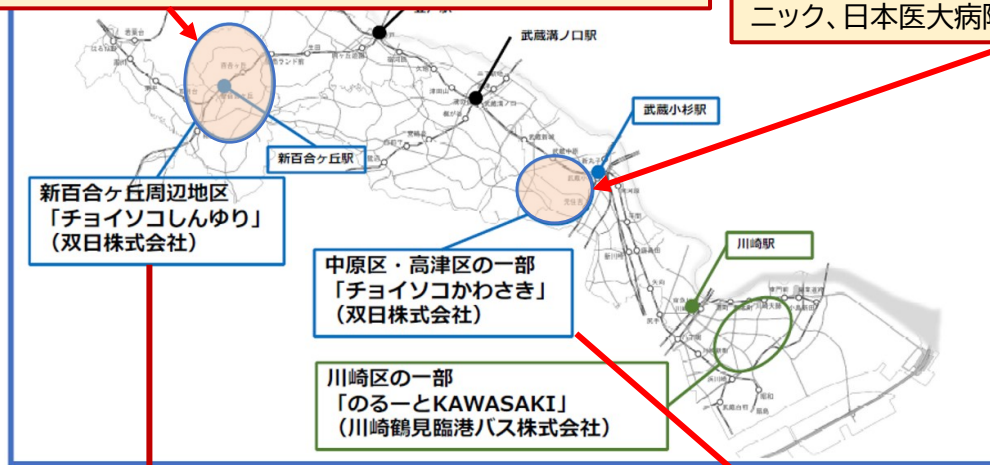
- 現時点**で、GSMを活用した「ぎんざんカート」は実際に運行され、観光客に利用されている。公式Webサイトの運行状況を見ると、複数台のぎんざんカートそれぞれに乗客のいることが分かり、利用する上で利便性が得られている。
- 今後**は、「ぎんざんカート」導入の経済効果、即ち地域外からの観光客数がどの程度増加したか等を見ていく必要がある。また、高年齢層を含めた国内&海外からの観光客を増やすために、それに向けた**適切でわかりやすい広報戦略**が必要。

- 運転手不足への対応や路線バスを補完する新たな交通手段の一つとしてデマンド型乗合交通サービスの実証実験を国交省の採択を受けた共創モデル実証プロジェクトとして実施された。

- 「LINE友だち」登録から会員登録をすれば利用可能となることから、若い年代にも会員登録されている。
- しかし、実際の利用は、会員数の約1/4に留まっている。
- チョイスコ川崎では30代、40代の利用が多いのに対して、チョイスコ新百合では各年で同程度の利用があり、高年齢層の利用も同等にある。(高齢化率が麻生区=24.9% 中原区=15.6%)
- チョイスコ新百合の場合、2月利用者数が続くとして、1日平均収入は、6,650円/日。
- チョイスコ川崎では、平均利用者数が続くとして、8,400円/日。
- 如何に利用者を増やすかが、今後の課題

★ 麻生区の新百合ヶ丘駅北側の県道3号線を谷底にして広がる起伏の多い丘陵地帯の北エリアと、南東に向かって谷となる傾斜地が多い南エリアで別個に運行

★ 中原区を中心とする1辺約3km平坦な地域。運行エリア外の北側に、等々力競技場、アリーナ、野球場等の施設や、富士通クリニック、日本医大病院など病院がある。



「チョイスコしんゆり」

◇新百合ヶ丘英気前交通渋滞への対策とともに、駅から離れた縁辺部の駅周辺へのアクセス性の向上

- ・ 実施主体：双日株式会社 (フランチャイズ形式)
- ・ 運行期間：R5.12.20(水)～R6.2.29(木) (約2か月間)
- ・ 運行日：北エリア (月・水・金・土) 南エリア (火・木・土・日)
- ・ 運行時間帯：平日 8時から21時まで 土日 9時から17時まで
- ・ 運賃：400円/回 (未就学児は無料)

- ・ 決済方法：現金、各種電子マネー (交通系、QRコード、クレジットなど)
- ・ 予約方法：LINE、Web、電話



・ 乗車定員：6名

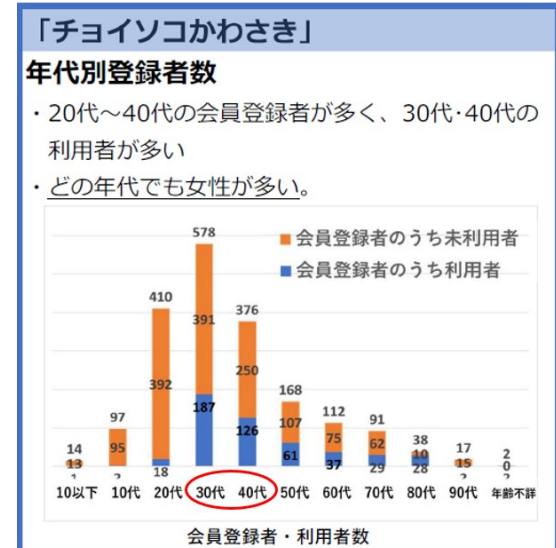
「チョイスコかわさき」

◇路線バスが利用しづらいエリアにおける鉄道駅、病院、スーパー、公共施設へ移動できる新たな交通

- ・ 運行形態：予約による乗り合い送迎サービス
- ・ 運行期間：R5.5.15(月)～R6.2.29(木) (約9か月間)
- ・ 運行日：月・水・金・土・日の週5日運行
- ・ 運行時間帯：8時半から17時まで
- ・ 運賃：300円/回 (R5.12.20から400円) (未就学児は無料)



・ 乗車定員：8名

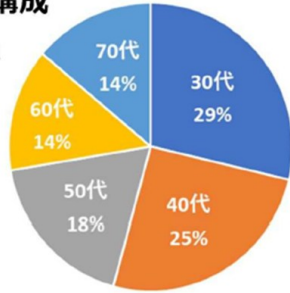


アンケート結果 (チョイソコ利用者へのアンケート)

「チョイソコかわさき」

Q.回答者の年齢構成

回答数：309名
女性：72%
男性：26%



Q.継続的な運行のために協力できることは？

- ①乗車回数を増やす 42%
- ②定期券/回数券の購入 32%
- ③広報活動への協力 14%
- ④地域イベント活動 6%
- ⑤特になし 4%

Q.継続運行を希望しますか？

(回答者数に対する百分率)

- ①強く望む 79%
- ②望む 17%
- ③その他 4%

こすぎエリア・しんゆりエリア合計で309名からのアンケートの回答を得た

- ・継続運行を強く望む声が79%を占めた
- ・継続的な運行のため、乗車回数を増やすこと、定期券・回数券の購入などに協力するとする声が多く寄せられた

アンケート結果

「チョイソコかわさき」

Q.外出の目的は？

- ①通勤・通学 19%
- ②買い物 32%
- ③通院 17%
- ④趣味やスポーツ 10%
- ⑤散歩 8%
- ⑥地域行事・ボランティアへの参加 2%
- ⑦福祉施設などへの通所 5%
- ⑧その他 3%

Q.利用しなかった理由は？

- ①停留所の場所が不便 16%
- ②予約希望日時を検索しても希望の日時の候補が表示されなかった 21%
- ③出発・到着時刻が読めず、予定に間に合わない可能性があった 15%
- ④運賃が高かった 15%
- ⑤使い方がわからなかった 12%
- ⑥ない 7%
- ⑦必要性がない 6%
- ⑧IDがわからなくて予約が出来なかった 4%

①⑤⑧：高齢者に使いやすい仕組みやソフト開発も必要かも（自宅への送迎や簡単入力、音声入力など）

②③ SaaSを旨く活用した対応が必要

・利用しなかった理由として「希望の日時の候補が表示されなかった」とする回答が最も多く、予約システム上でのリコメンド機能などがあれば利用者増に繋がる可能性があるものとする

2つのチョイソコから

- ・川崎市の2つの地区における実装実験から、オンデマンド型交通に対する市民のニーズや需要規模を、ある程度は確認出来たのではないかと。
- ・運行費用の回収には需要拡大が必須であり、そのためにも利用のしやすさ改善を始めとした、乗車需要を拡大させるための方策が必要。
… 2024年度は双日が手を引いたのは、採算性の目途が立たなかったからか？

チョイソコ川崎第2幕(2024年11月～25年1月)が進行中

- ・ 2024年度は、経産省の「地域新MaaS推進事業」に採択され、株式会社アイシンが事業主体となり、試行実験が行われている。(2024/11/1～2025/1/31)
- ・ 「利用者の多かった子育て世代をターゲットとしたデマンド交通の提供」および、「カーディーラーを地域のハブとする新たなビジネスの創出」を目標としている。
- ・ 中原区を中心とした「チョイソコ川崎」の区域内を中心に、区域外の停留所を増やすとともに、カーディーラー店舗(トヨタ)4カ所で多様なサービス&ビジネス提供をおこない、人が集まる場所とモビリティ拠点での新しい価値創出を目指して実験を始めている。
- ・ 25年1月現在、3カ所のカーディーラー店舗で、参加費無料・事前予約制にて、ヨガ教室、プログラミング教室、小学生のダンス教室、ボッチャなどが実験的に開催されている。